

日	時	令和2年3月2日(月) 10時～11時45分
場	所	北海道立道民活動センター 730研修室
出	席	者 別添「出席者名簿」のとおり
議	題	等 1 報告事項 (1) 令和元年度第2回検討会現地調査報告について (2) 令和元年度多面的機能支払交付金の実施状況について 2 議 事 (1) 令和2年度多面的機能支払交付金の実施計画について (2) 今後のスケジュールについて

(○ ～ 構成員、● ～ 事務局)

1 報告事項

(1) 令和元年度第2回検討会現地調査報告について

- ア 事務局から資料1に基づき説明
- イ 質疑応答 ～ 無

(2) 令和元年度多面的機能支払交付金の実施状況について

- ア 事務局から資料2-1、2-2に基づき説明
- イ 質疑応答 ～ 有

- 資料2-1の3で「留萌地域では地目の変更により、面積が増減している。」とあるが、これは、留萌地域に限ったことか。全道的にもあることなのか。
- 留萌地域で地目変更の面積が大きかったため記載した。全道的に地目変更はある。
- 資料2-2の普及活動で未取組の5町村で説明会を実施しているが、これまで未取組だった原因や理由について、わかったことはあるか。
- 制度の内容が農家に深く理解されておらず、交付金を活用した活動を実施しようという声なかったことや、中山間地域等直接支払制度に取り組んでいることなどから多面的機能支払制度には取り組んでいなかった。
- 資料2-1の1に活動を終了した組織とあるが、終了した事情を説明いただきたい。また、4で「独自単価を解消する市町村」とあるが独自単価について説明願う。
- 終了した組織の理由は、事務処理量が多く役員の負担が大きいことや高齢化により役員のなり手が不足するなど、今後5年間の活動を継続する見通しが立たない地域が多くあった。独自単価は、国の実施要綱において、地域の実情に応じて国が定める交付単価に0.5を乗じた額以上であり、かつ交付単価を超えない範囲内で設定することが可能となっている。
- 事務処理量の問題については、土地改良区との連携による事務負担の軽減を推進しているようだが、終了した組織では土地改良区のサポートはなかったのか。
- 道内では、すでに土地改良区と活動組織の連携が進んでいるが、終了した組織には土地改良区のない地域が多かった。土地改良区のない地域では農協が事務を請け負う場合もあるが、終了した組織ではそのような体制が整わなかった。
- 土地改良区のない地域は畑や草地地域に多いと思うが、今後も同様に活動を終了する組織が出てきそうだがどうか。
- 終了したいとの意見がある組織には、広域化など事務負担の軽減を図る提案を行ってきたが、それも難しいということであった。来年度に向けては、道協議会と連携して、事務支援システムを活用した事務負担の軽減を図るとともに、事務局体制の強化として、広域化を中心に提案していきたい。
- 広域化を提案する目的は、事務の効率化を進めるためということと理解してよいか。また、面積が減少するということだが、事務体制の改善をしないと、今後も徐々に面積が減少する可能性がある。対応策として広域化のほかに何か検討しているのか。
- 広域化の目的は事務負担の軽減だけではなく、鹿柵を広域に設置することなど広域で行う

ことで重点的・集中的な活動の取組が可能となるというメリットを説明している。面積の減少に対する取組としては、後ほど資料3で説明する。

2 議 事

※ 事務局から長澤構成員を座長に指名し、進行

(1) 令和元年度多面的機能支払交付金の実施計画について

ア 事務局から資料3-1、3-2、3-3に基づき説明

イ 質疑応答 ～ 有

- 長寿命化対策の交付金額が減少しているのはなぜか。
- 長寿命化対策を活用してきた地域において、新たに道営農業農村整備事業等で整備を予定することとなり、長寿命化対策で計画していた箇所を取りやめたことなどによる。
- 資料3-2の国の制度改正について、複数の女性役員の参画によって加算措置の要件を緩和するという趣旨だと思うが、逆に要件が厳しくなっているように感じる。
- 事務作業の簡素化のため、日当支払いを面積ベースで行うことも可能とするようだが、多面的機能支払の趣旨が十分に理解されなくなる恐れがある。制度の趣旨を更に浸透させるような努力が必要。

この交付金制度について、集落の活性化や資源保全に対する中長期的な方針を地域の皆さんで議論し、執行していく仕組みが必要。例えば、女性の参画も北海道の農村にとって非常に大きな課題であるが、女性が積極的に活躍できる場がなく、どんどん集落活動を縮小してきている実態があり、中長期的な方針、目標がなければ単に加算金を受けるための方便としてやり過ぎしてしまう。
- 制度的には、地域での話し合いにより、将来にわたる地域資源の保全管理に関する構想を策定することとなっており、将来を見据えたことも考えるような仕組みにはなっている。
- 市町村では多くのビジョンを作っているが、ビジョン間のつながりが必ずしも明確ではない。それぞれビジョン間でどのような役割、連携をしているかということが明確ではないというような感じがする。

例えば人農地プランという上位計画があるが、その中で地域資源を保全するとか環境を守るという活動がどのように位置づけられているかを視野に入れていえるとは言えない感じがする。これからいろいろプランニングをするときに地域レベルで関わりのあるプラン間の有機的な連携、関係性を少し明確にして策定していただくように要望したい。
- 資料3-2の応急体制の整備について教えていただきたい。

応急体制の整備とは、災害復旧を事業で行うことと個々の農業組織が事業によらず対応するものを仕分けし、どう予算を確保するかなどを検討する体制のことなのか。

防災減災については、農業が農地がどんな形で今後活かされていくのか。堰板立てて水田に水を貯めるということも積極的に行い、その面積がこれだけ広がっているなどのように農地は大事であることを社会に対してアピールできる。

また、災害時における農地を復旧するための費用は、多面的機能支払のほかに支援制度はあるのか教えていただきたい。
- 応急体制の整備は、例えば異常気象時の対応として、市町村、土地改良区、活動組織などの関係者が迅速に被災状況を集約し、話し合いを行い、早期復旧を図るなど、いかに情報を短時間で集約して役割分担を明確にするかというソフト的な応急体制を整備することなどをイメージしている。災害発生時の初動において、活動組織がうまく動けるような体制づくりを推進するため、加算の対象となるメニューに位置付けられた。

多面的機能支払の対象は、農地に流入した土砂の除去や崩れた箇所にブルーシートを貼り被害の拡大を防ぐなど事業の対象とならないようなところを守備範囲にしている。
- 多面的機能支払は、災害時における地先の小さな問題に対して手当できる唯一の制度か。
- 土地改良区など水利組合の皆さんが通常の泥上げや維持補修のために維持管理費として確保しているところはあるが、基本的には末端の管理は多面的機能支払が効果的である。
- 資料の3-3の3ページの取組の1として、女性参画の推進とあるが、これは課題の2ではないか。なぜ課題1なのか。

- 1の保全管理体制の脆弱化は、農業者以外の多様な主体の参画が課題であるが、多様な主体としては、非農業者が中心となり女性もイメージしているため取組の1とした。
- 女性の参画は難しい。北海道の農家の女性の方々は非常に元気なイメージがある。物づくりとか自分達の意見を持たれている方が多いが、なぜ参画されないのかと思う。
- 男性と同様に活動している人はいるが、そうではない方は表には出ておらず、かなり多いと思う。
- 補足資料に女性の参画について追加調査を検討とあるが、今の意見のように、どうして女性の参画が難しいのかといったことをあぶり出すような調査をしてはどうか。
- 農協女性部などどんどん解散しており、公式な場になかなか女性は出てこない。女性参画と強く言うほど引いてしまうのではないかと。

そういう意味ではいろいろな役割を女性に与えるだけでなく、権限を与えないとだめだと思う。つまり、大変なことを皆で分かち合いましょう、負担してくださいというのでは非常に重たい課題に対して積極的になれない。

やはり一定の予算の裏付けのある権限を与えたほうがよく、そういう意味では多面的機能支払は非常に有力な武器になると思う。

これを使いながら北海道の農村の体質を変えるくらいの意気込みを持つべきであり、それを女性が明確に意識しないと。

老人クラブも解散しているが、やはりいろんな負担を分かち合いましょうというだけでは絶対動かないと思う。

(2) 今後のスケジュールについて

- ア 事務局から資料4に基づき説明
- イ 質疑応答 ～ 無

以 上